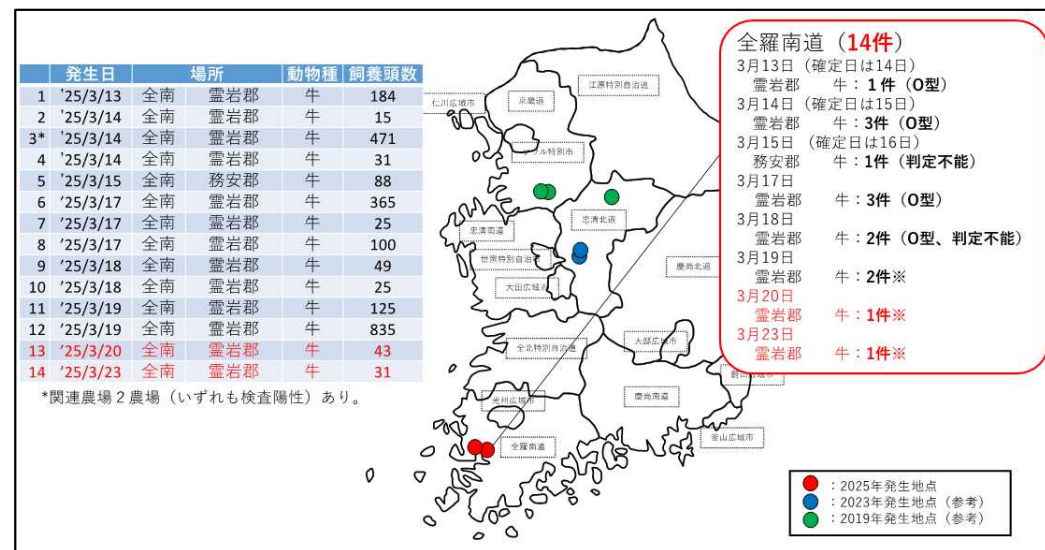


口蹄疫の発生から15年を迎えた取組について ～ 忘れない そして さらに前へ ～

★ 東アジアにおける口蹄疫の継続的な発生と県内における備え

- 特に韓国での口蹄疫の再発とその拡大に伴う県内へのウイルス侵入リスクの増大
 - 3月に韓国南東部の牛農場で約2年ぶりの発生 → その後、拡大（3月23日現在 計14件）
 - 2000年、2010年に県内において口蹄疫が発生した際は、その前に韓国で発生を確認
 - コロナ禍以降のインバウンドの回復、韓国定期便の就航

- 県内の農場でのバイオセキュリティ対策の強化
 - ウイルスを持ち込まない、持ち込ませない対策の徹底
(通知、家畜防疫情報メール・SNS等による発信)
 - ・ 必要のない者を農場へ立ち入らせない
 - ・ 農場に出入りする人や車両の消毒の徹底
 - ・ 畜舎消毒の徹底



韓国における口蹄疫の発生状況（農林水産省HP）

★ 2010年の口蹄疫から15年の節目を迎えた取組（～ 忘れない そして さらに前へ～）

○ この15年を改めて振り返ることで、関係者における防疫意識の更なる向上を図る

⇒ 畜産経営の土台となる家畜防疫体制を強化し、本県畜産業の持続的発展を目指す

時 期	目 的	取 組 ※ 太字 は知事出席
4月（特別防疫月間）	① 防疫体制の強化キャンペーン ② 空海港における水際防疫体制の強化 ③ 万が一の発生へ備えた体制の確認	・「特別防疫月間」のぼり旗の設置、SNS等による発信（4/1～4/30） ・ 宮崎空港ビル、宮崎カーフェリーにおける万全な水際防疫体制に係る意見交換（4/15） ・ 宮崎空港における韓国定期便の搭乗者への啓発（4/23） ・ 口蹄疫の発生を想定した家畜防疫演習の実施（4/22）
8月27日（終息宣言日）	口蹄疫発生から15年間の振り返りと、今後の畜産業の発展へ向けた意見交換	・ 関係者が参集した口蹄疫終息15年行事の開催
10月～11月	関係者との防疫意識の共有による水際・地域・農場防疫体制の強化	・ 市町村、畜産関係団体、防疫協定締結団体が参集した家畜防疫連携会議の開催
2月（家畜防疫強化月間）	① 防疫体制の強化キャンペーン ② 空港における水際防疫体制の強化	・「家畜防疫強化月間」のぼり旗の設置、SNS等による発信 ・ 宮崎空港における韓国定期便の搭乗者への啓発

★ 2010年に県内で発生した口蹄疫

- 発生から終息まで130日間の戦い
 - 4月20日の初発事例以降、計297,808頭の尊い命が犠牲に
 - 『非常事態宣言』により、県民生活や県内経済へ大きな影響
 - 8月27日に『口蹄疫終息』を宣言

○ 県内経済への影響

畜産業及び畜産関連業への影響	約1,400億円
その他の産業への影響	約950億円
合 計	約2,350億円



県建設業協会による埋却作業



激励の千羽鶴

★ 口蹄疫からの再生・復興、新生の歩み

○ 各プラン等の策定による口蹄疫以降の取組

- | | | |
|----------------------------------|-------------------------------|---------------------------------|
| ① 口蹄疫からの再生・復興方針
(2010～2012年度) | ② 宮崎県畜産新生プラン
(2013～2015年度) | ③ 宮崎県畜産新生推進プラン
(2016～2020年度) |
|----------------------------------|-------------------------------|---------------------------------|

④ みやざき畜産共創プラン (2021～2025年度)

家畜防疫の強靱化

- ・防疫力の強化
- ・防疫体制の強化

生産力の強靱化

- ・生産基盤の強化
- ・生産性の向上
- ・新技術の普及促進

人材力の強靱化

- ・担い手の確保
- ・働き方改革
- ・指導者の確保

地域資源循環の強化

- ・飼料自給率の向上
- ・脱炭素社会を目指した畜産
バイオマスエネルギーの
利活用と資源循環の推進

販売力の強靱化

- ・販売戦略
- ・輸出拡大
- ・関連産業の成長促進